

令和4年度 岡崎市
メンタルヘルスに関する市民意識調査
調査結果報告書
(学生版)

令和5年3月

岡 崎 市

目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の表示方法	1
7	うつ尺度を使用した“うつ状態の人”の実態や考え方等の分析.....	2
II	調査結果	3
1	基本属性	3
2	不安や悩み、ストレスについて	7
3	新型コロナウイルス感染症の影響について	17
4	こころの健康や病気に関することや相談機関情報について.....	20
5	調査結果のまとめ	32

I 調査の概要

1 調査の目的

本市では、こころの健康に関する皆さまの現状や考え方などを把握し、総合的なこころの健康づくりを推進するための基礎資料として活用することを目的としています。

2 調査対象

岡崎市の短大・大学等に通う学生の方 4,336 人

3 調査期間

令和4年4月1日～令和4年6月30日まで

4 調査方法

対面による配布・回収、またはWEBによる回答

5 回収状況

配布数	有効回答数	有効回答率
4,336 人	551 件	12.7%

6 調査結果の表示方法

- ・回答比率は各質問の回答者数を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計（年代別集計など、複数項目の組み合わせで分類した集計のこと）の場合、無回答を除外しているため、クロス集計の回答者数の合計と単純集計（全体）の回答者数が合致しないことがあります。
- ・調査結果を図表に表示していますが、グラフ以外の表は最も高い割合のものを  で網かけをしています（無回答を除く）。
- ・帯グラフにおいて、割合が0.0%であった場合、表示を省略しています。
- ・n=30 以下については、回答比率が大きく変動するため、コメントをしていない場合があります。

7 うつ尺度を使用した“うつ状態の人”の実態や考え方等の分析

本調査では、「うつ状態であるかどうか」を分析軸として使用するため、CES-D※（抑うつ状態の事故評価尺度）を用いて、20 項目のからだやこころの状態、物事の感じ方から市民のうつの状況を把握しました。

※CES-D（The Center for Epidemiologic Studies Depression Scale）は、一般におけるうつ病の発見を目的として、米国国立精神保健研究所（NIMH）により開発されました。有用性の高さから、世界中で普及しているうつ病の自己評価尺度です。

<うつ尺度>

このテストでは、感情要素を「①普段はなんでもないことがわずらわしい」や「②食べたくない、食欲が落ちた」などのマイナス要素 16 項目と「④他の人と同じ程度には、能力があると思う」などのプラス要素 4 項目の計 20 項目を 0 点から 3 点までの 4 段階により評価し、その総得点から 4 段階（16 点未満：正常、16～20 点：軽いうつ状態、21～25 点：中程度のうつ状態、26 点以上：重度のうつ状態）で評価します。

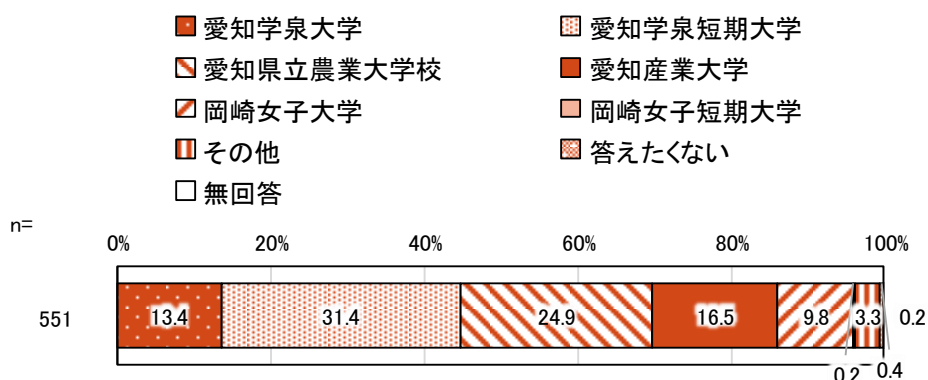
【調査項目／得点配分】

項 目	ほとんど なかった (1日未満)	少しはあった (1～2日)	時々あった (3～4日)	たいてい そうだった (5～7日)
①普段はなんでもないことがわずらわしい	0点	1点	2点	3点
②食べたくない、食欲が落ちた	0点	1点	2点	3点
③家族や友人から励ましてもらっても、気分が晴れない	0点	1点	2点	3点
④他の人と同じ程度には、能力があると思う	<u>3点</u>	<u>2点</u>	<u>1点</u>	<u>0点</u>
⑤物事に集中できない	0点	1点	2点	3点
⑥ゆううつだ	0点	1点	2点	3点
⑦何をするのも面倒だ	0点	1点	2点	3点
⑧先のことについて積極的に考えることができる	<u>3点</u>	<u>2点</u>	<u>1点</u>	<u>0点</u>
⑨過去のことにについてくよくよ考える	0点	1点	2点	3点
⑩何か恐ろしい気持ちがある	0点	1点	2点	3点
⑪なかなか眠れない	0点	1点	2点	3点
⑫生活について不満なく過ごせる	<u>3点</u>	<u>2点</u>	<u>1点</u>	<u>0点</u>
⑬ふだんより口数が少ない、口が重い	0点	1点	2点	3点
⑭ひとりぼっちで寂しい	0点	1点	2点	3点
⑮皆がよそよそしいと思う	0点	1点	2点	3点
⑯毎日が楽しい	<u>3点</u>	<u>2点</u>	<u>1点</u>	<u>0点</u>
⑰急に泣き出すことがある	0点	1点	2点	3点
⑱悲しいと感じる	0点	1点	2点	3点
⑲皆が自分を嫌がっていると感じる	0点	1点	2点	3点
⑳仕事（学習）が手につかない	0点	1点	2点	3点

Ⅱ 調査結果

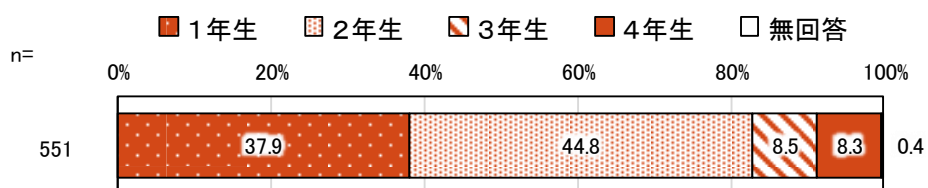
1 基本属性

F 1 あなたの学校は



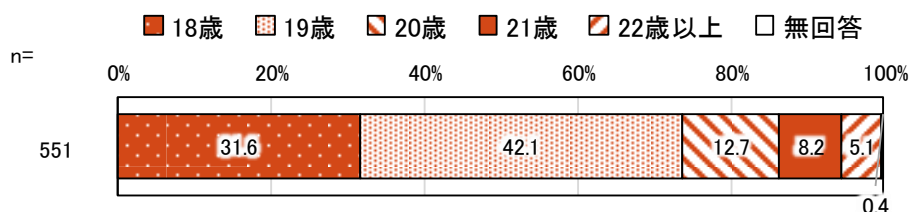
在籍している学校については、「愛知学泉短期大学」が31.4%と最も高く、次いで「愛知県立農業大学校」が24.9%、「愛知産業大学」が16.5%の割合となっています。

F 2 あなたの学年は



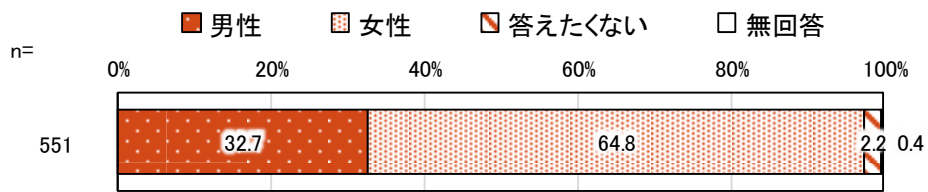
学年については、「2年生」が44.8%と最も高く、次いで「1年生」が37.9%、「3年生」が8.5%の割合となっています。

F 3 あなたの年齢は



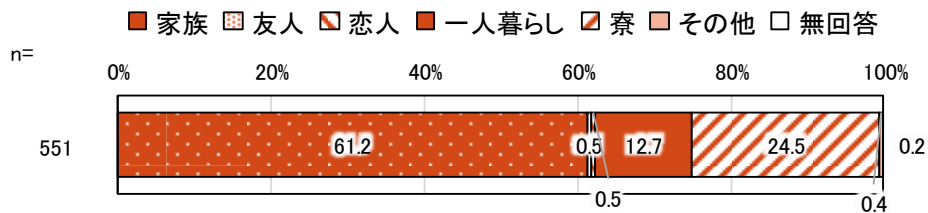
年齢については、「19歳」が42.1%と最も高く、次いで「18歳」が31.6%、「20歳」が12.7%の割合となっています。

F 4 あなたの性別は

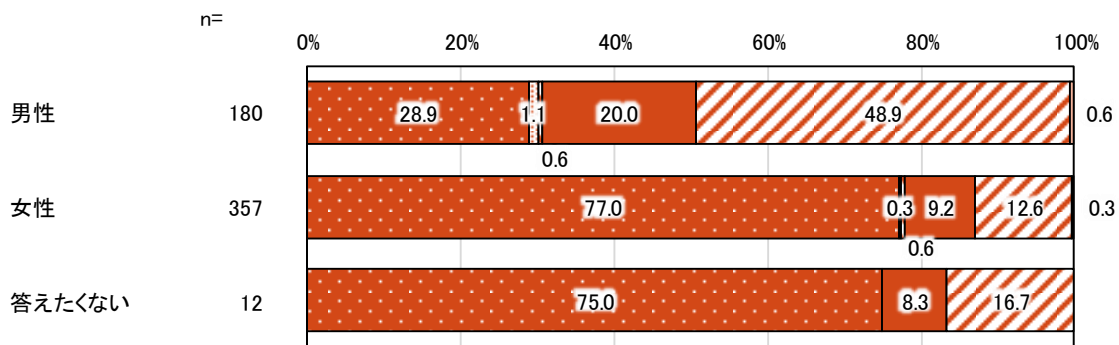


性別については、「男性」が32.7%、「女性」が64.8%の割合となっています。

F 5 あなたは誰と生活していますか



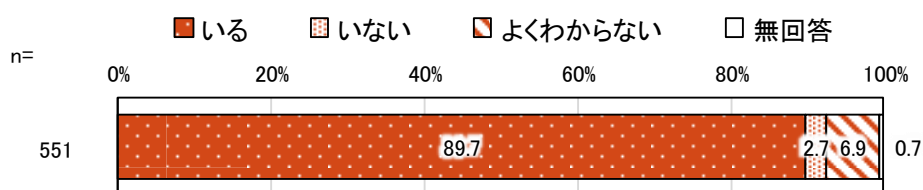
【学年別 (n=549/551)】



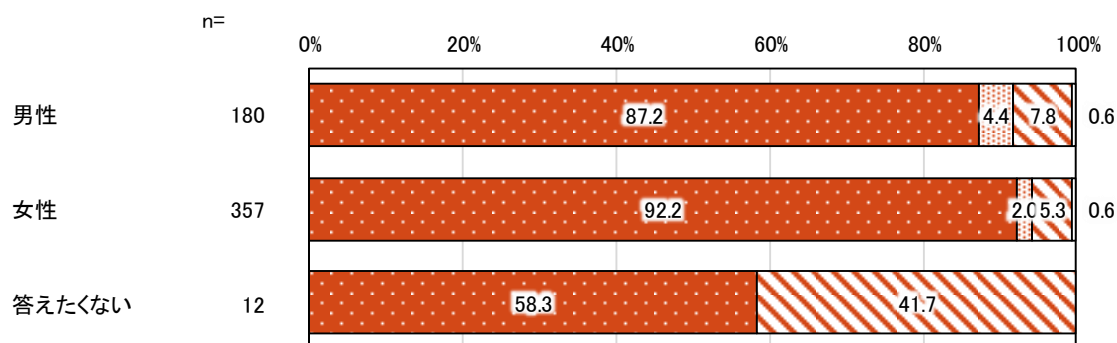
誰と生活しているかについては、「家族」が61.2%と最も高く、次いで「寮」が24.5%、「一人暮らし」が12.7%の割合となっています。

性別でみると、男性は「寮」の割合が48.9%、女性は「家族」の割合が77.0%と高くなっています。

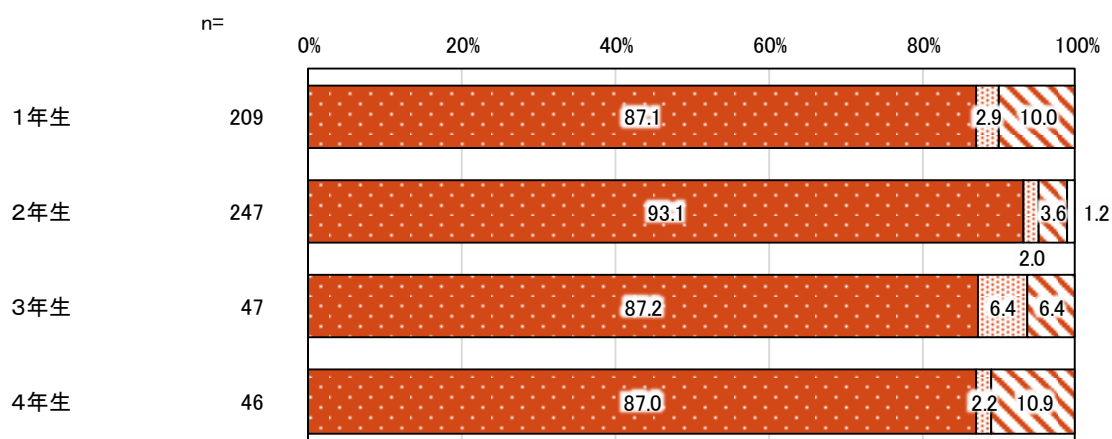
F 6 あなたは親しい友人がいますか



【性別 (n=549/551)】



【学年別 (n=549/551)】

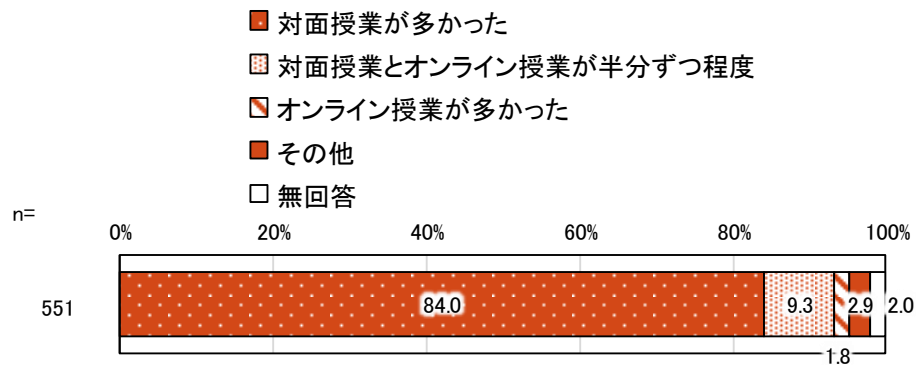


親しい友人の有無については、「いる」が 89.7%、「いない」が 2.7%、「よくわからない」が 6.9%の割合となっています。

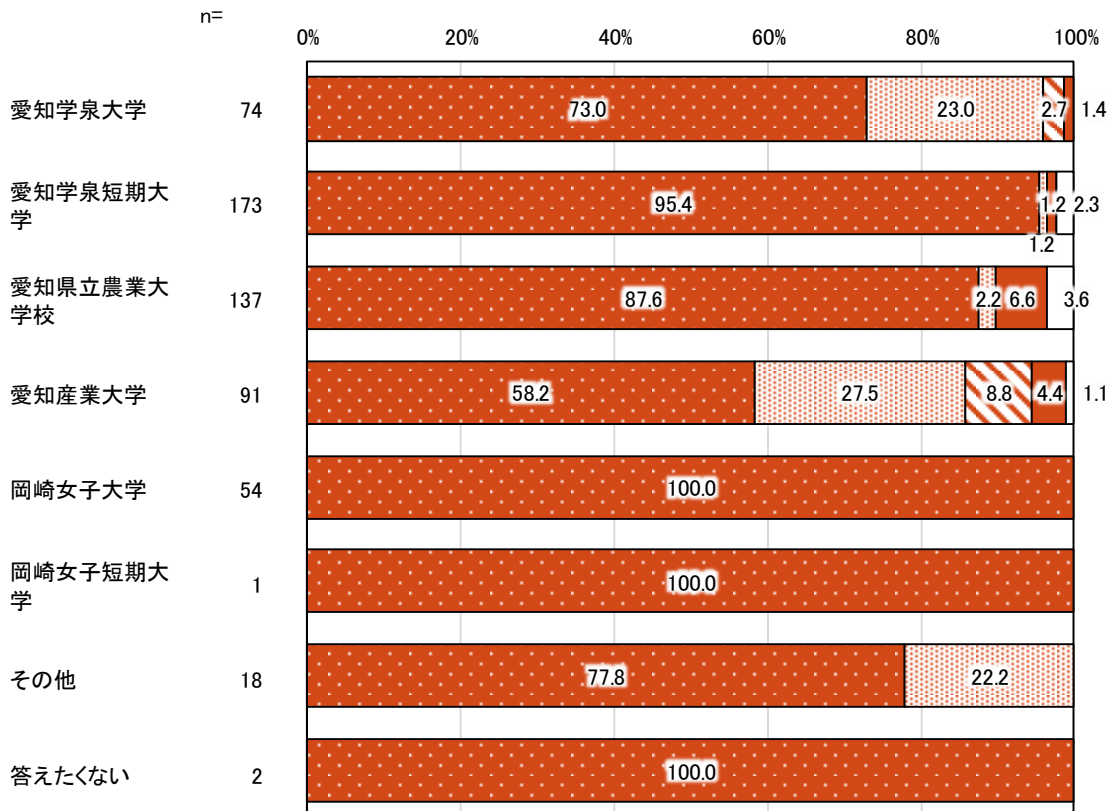
性別でも、大きな差は見られません。

学年別でみると、2年生で「いる」の割合が 93.1%、4年生で「よくわからない」の割合が 10.9%と高くなっています。

F 7 昨年の授業形式は



【学校別 (n=550/551)】

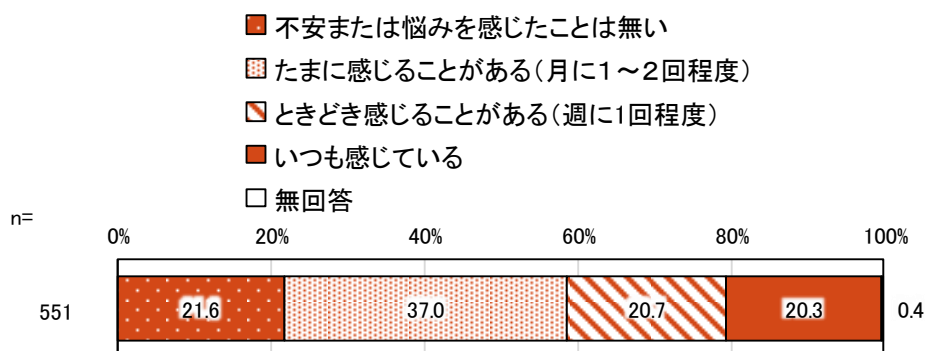


昨年の授業形態については、「対面授業が多かった」が84.0%と最も高く、次いで「対面授業とオンライン授業が半分ずつ程度」が9.3%の割合となっています

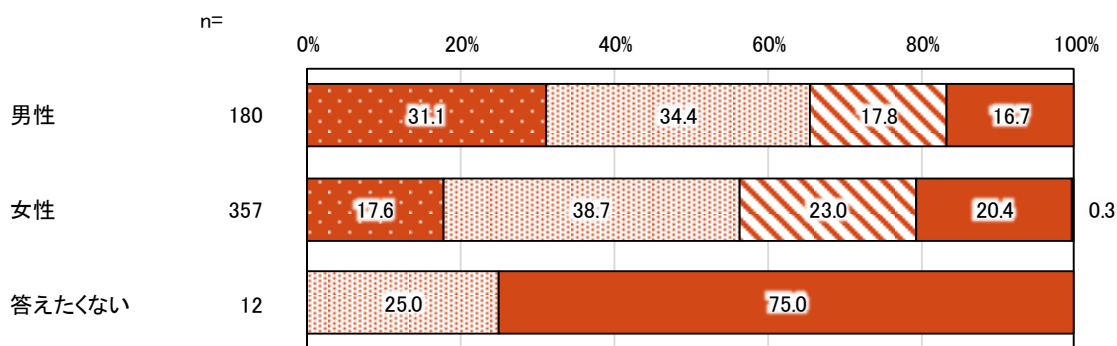
学校別でみると、愛知産業大学で「対面授業が多かった」の割合が58.2%と低く、「対面授業とオンライン授業が半分ずつ程度」の割合が27.5%と高くなっています。

2 不安や悩み、ストレスについて

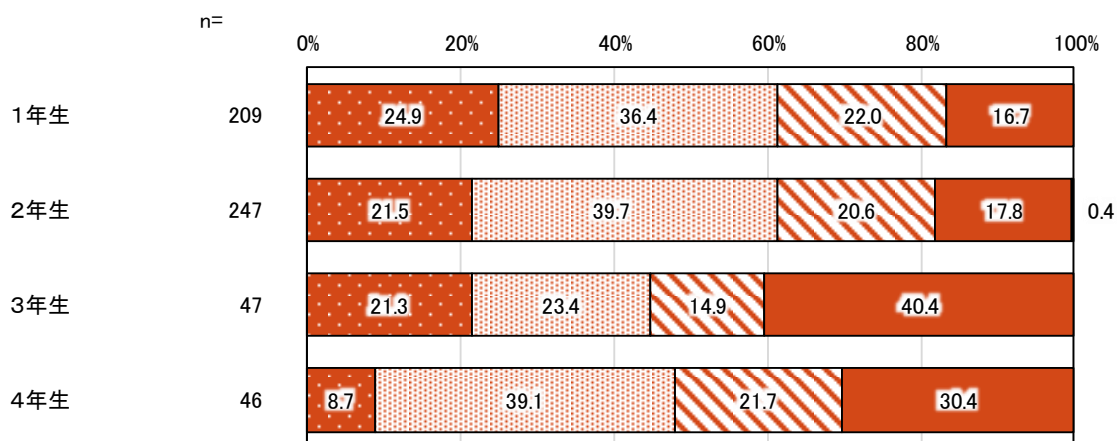
問1 この1か月くらいで、不安または悩みを感じたことはありますか。(〇は1つ)



【性別 (n=549/551)】



【学年別 (n=549/551)】



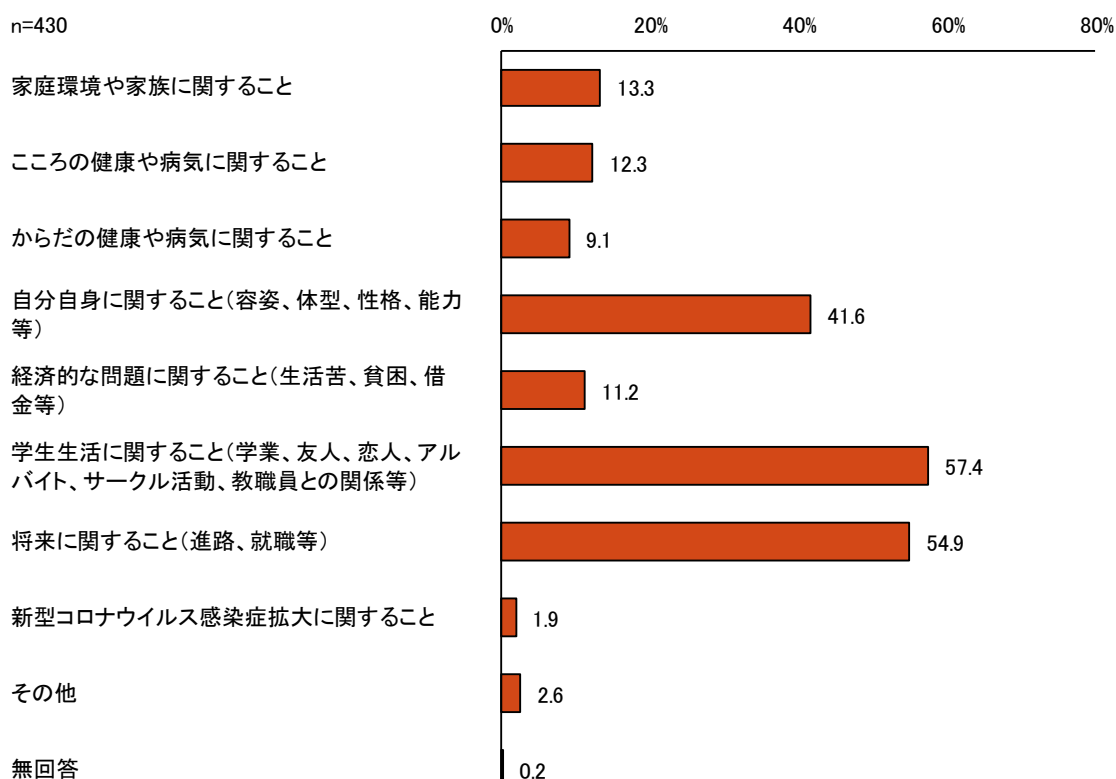
この1か月くらいで不安や悩みを感じたことの有無については、「たまに感じることもある(月に1～2回程度)」が37.0%と最も高く、次いで「不安または悩みを感じたことは無い」が21.6%、「ときどき感じることもある」が20.7%の割合となっています。

性別でみると、男性は「不安または悩みを感じたことは無い」の割合が31.1%と高くなっています。

学年別でみると、3年生で「いつも感じている」の割合が40.4%と高くなっています。

問1で「2. たまに感じることもある（月に1～2回程度）」「3. ときどき感じることもある（週に1回程度）」「4. いつも感じている）」の回答をされた方におたずねします。

問2 それはどのような事柄が原因ですか。（あてはまる番号3つまでに○）



【性別（n=429/430）、学年別（n=429/430）、親しい友人の有無別（n=427/430）】

(単位: %)

		有効回答数（件）	家庭環境や家族に関すること	こころの健康や病気に関すること	からだの健康や病気に関すること	自分自身に関すること(容姿、体型、性格、能力等)	経済的な問題に関すること(生活苦、貧困、借金等)	学生生活に関すること(学業、友人、恋人、アルバイト、サークル活動、教職員との関係等)	将来に関すること(進路、就職等)	新型コロナウイルス感染症拡大に関すること	その他	無回答
性別 n=429	男性	124	9.7	9.7	15.3	31.5	10.5	51.6	54.8	0.8	3.2	-
	女性	293	14.3	12.3	6.5	45.4	10.6	60.4	54.6	2.4	2.4	0.3
	答えたくない	12	25.0	41.7	8.3	58.3	25.0	50.0	66.7	-	-	-
学年 n=429	1年生	157	14.6	14.6	8.9	40.1	9.6	64.3	36.3	1.3	3.8	-
	2年生	193	10.4	8.8	8.3	43.0	10.4	56.5	57.0	2.1	2.1	0.5
	3年生	37	8.1	21.6	13.5	37.8	16.2	59.5	86.5	5.4	2.7	-
	4年生	42	26.2	11.9	7.1	42.9	16.7	35.7	88.1	-	-	-
親しい友人の有無 n=427	いる	380	12.9	11.6	8.9	40.0	11.3	57.4	53.9	1.8	2.6	0.3
	いない	11	18.2	27.3	18.2	63.6	-	54.5	54.5	9.1	-	-
	よくわからない	36	16.7	16.7	8.3	52.8	13.9	61.1	63.9	-	2.8	-

不安や悩みの原因については、「学生生活に関すること（学業、友人、恋人、アルバイト、サークル活動、教職員との関係等）」が57.4%と最も高く、次いで「将来に関すること（進路、就職等）」が54.9%、「自分自身に関すること（容姿、体型、性格、能力等）」が41.6%の割合となっています

性別でみると、男性で「自分自身に関すること（容姿、体型、性格、能力等）」の割合が31.5%と低くなっています。

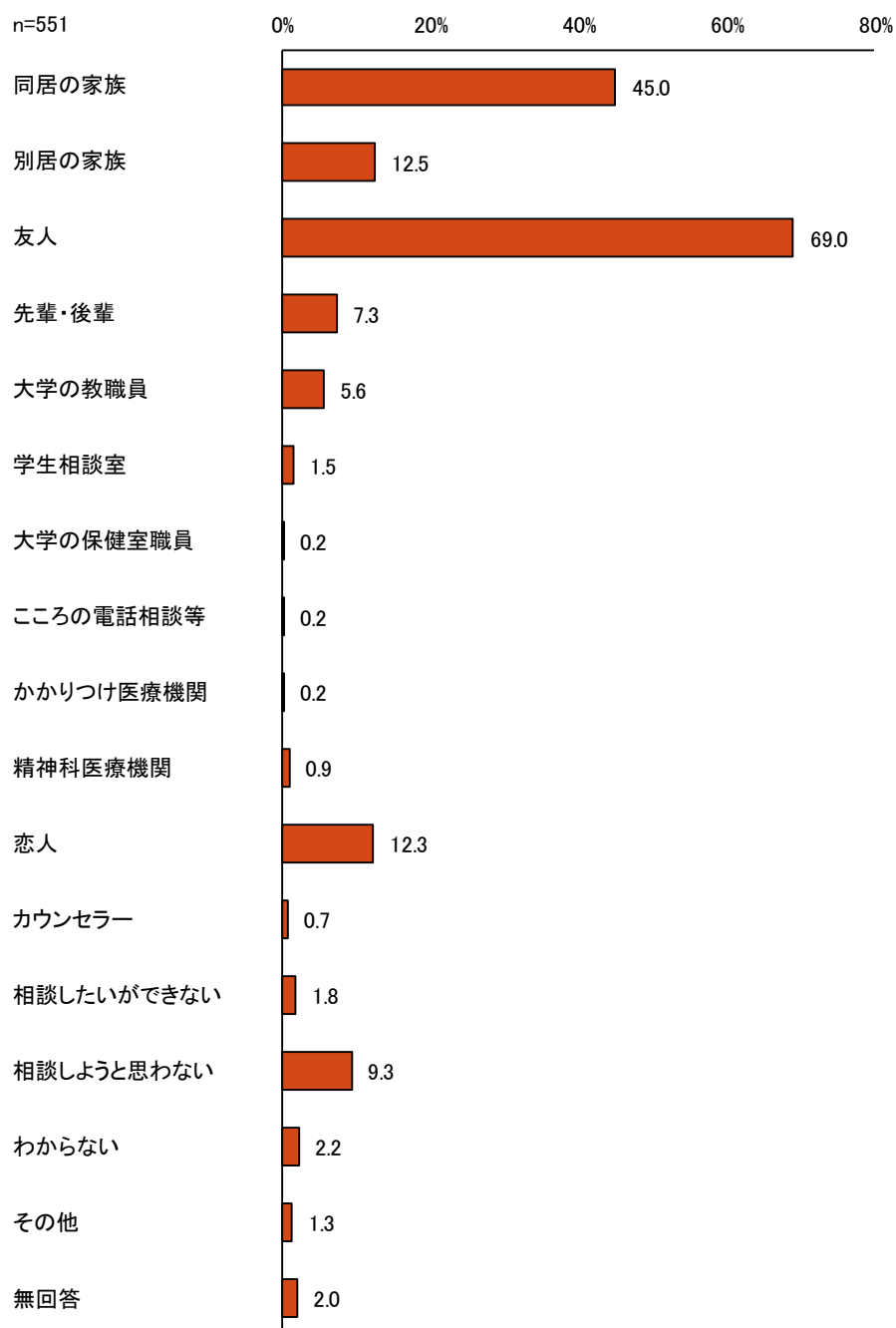
学年別でみると、1年生は「学生生活に関すること（学業、友人、恋人、アルバイト、サークル活動、教職員との関係等）」の割合が64.3%と高くなっています。また、「将来に関すること（進路、就職等）」の割合が3年生で86.5%、4年生で88.1%と高くなっています。

親しい友人の有無別でみると、親しい友人がいるかよくわからない人は「自分自身に関すること（容姿、体型、性格、能力等）」の割合が52.8%と高くなっています。

【その他の主な回答内容】

- ・授業内容（発表など）
- ・人間関係 など

問3 あなたは、不安や悩みや辛い気持ちがあるとき、誰に相談しますか。
(あてはまる番号すべてに○)



【性別 (n=549/551)、学年別 (n=549/551)、同居人別 (n=550/551)、親しい友人の有無別 (n=547/551)】

(単位:%)

		有効回答数 (件)	同居の家族	別居の家族	友人	先輩・後輩	大学の教職員	学生相談室	大学の保健室職員	こころの電話相談等	かかりつけ医療機関	精神科医療機関	恋人	カウンセラー	相談したいができない	相談しようと思わない	わからない	その他	無回答
性別 n=549	男性	180	33.9	16.7	60.6	9.4	7.2	3.3	-	-	-	0.6	8.9	1.1	1.1	14.4	3.3	1.1	2.8
	女性	357	51.0	10.6	74.5	6.2	5.0	0.6	0.3	-	0.3	1.1	14.3	0.6	2.0	6.2	1.4	1.4	1.4
	答えたくない	12	33.3	8.3	33.3	8.3	-	-	-	8.3	-	-	8.3	-	8.3	25.0	8.3	-	-
学年 n=549	1年生	209	42.1	17.2	67.9	7.7	1.4	0.5	0.5	0.5	-	1.0	12.0	0.5	3.8	7.7	1.4	1.0	1.9
	2年生	247	48.2	9.3	70.9	6.9	6.1	0.4	-	-	-	0.8	13.4	1.2	-	10.5	2.8	1.6	2.0
	3年生	47	36.2	10.6	51.1	12.8	10.6	4.3	-	-	2.1	-	6.4	-	4.3	17.0	2.1	2.1	-
	4年生	46	52.2	10.9	84.8	2.2	17.4	8.7	-	-	-	2.2	15.2	-	-	-	2.2	-	2.2
同居人 n=550	家族	337	58.8	2.4	70.9	8.0	7.1	1.5	0.3	0.3	0.3	0.9	13.9	0.3	1.8	7.1	2.4	1.2	1.8
	友人	3	-	-	100.0	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	恋人	3	-	33.3	100.0	-	-	-	-	-	-	-	33.3	-	-	-	-	-	-
	一人暮らし	70	8.6	37.1	64.3	2.9	1.4	4.3	-	-	-	-	8.6	-	4.3	12.9	1.4	1.4	1.4
	寮	135	32.6	25.2	65.2	7.4	4.4	-	-	-	-	1.5	9.6	2.2	0.7	13.3	2.2	1.5	2.2
	その他	2	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-
親しい友人の有無 n=547	いる	494	47.0	12.6	74.1	8.1	5.9	0.8	0.2	-	-	0.8	13.0	0.4	1.2	8.3	1.8	0.8	2.0
	いない	15	33.3	13.3	26.7	-	-	13.3	-	-	6.7	-	-	6.7	-	13.3	-	6.7	-
	よくわからない	38	28.9	10.5	21.1	-	5.3	5.3	-	2.6	-	2.6	7.9	2.6	10.5	21.1	7.9	5.3	-

不安や悩みの相談相手については、「友人」が69.0%と最も高く、次いで「同居の家族」が45.0%、「別居の家族」が12.5%の割合となっています。

性別でみると、男性は「相談しようと思わない」の割合が14.4%、女性は「同居の家族」の割合が51.0%と高くなっています。

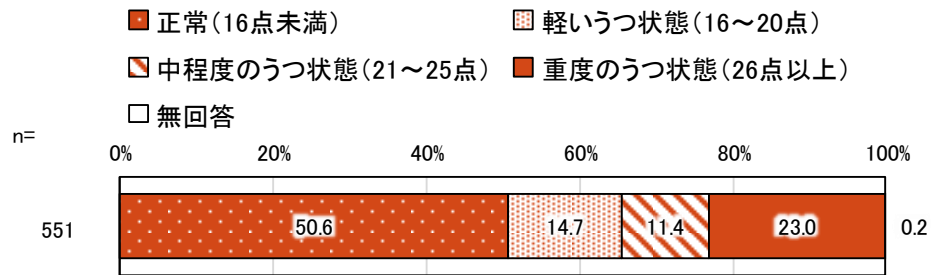
学年別でみると、4年生で「友人」の割合が84.8%、「大学の教職員」で17.4%と高くなっています。

同居人別でみると、家族で「同居の家族」の割合が58.8%、一人暮らしで「別居の家族」の割合が37.1%と高くなっています。

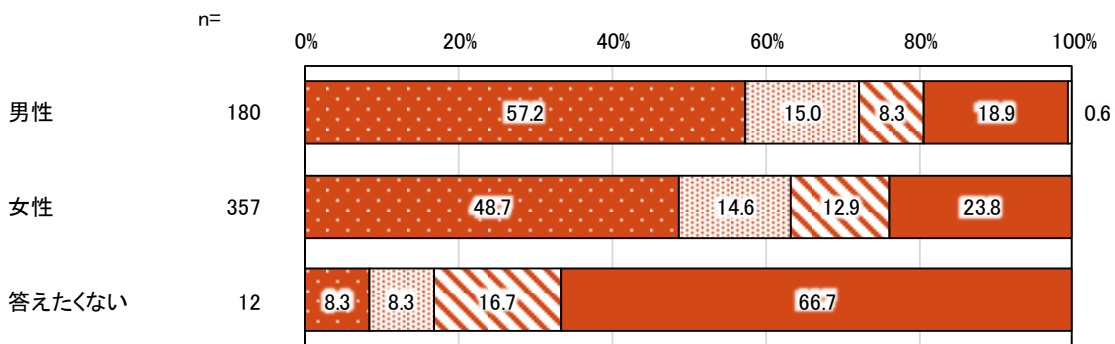
親しい友人の有無別でみると、親しい友人がいるかよくわからない人は「相談しようと思わない」の割合が21.1%と高くなっています。

問4 この1週間でのあなたのからだやこころの状態、物の感じ方について教えてください。
(それぞれの項目に○は1つ)

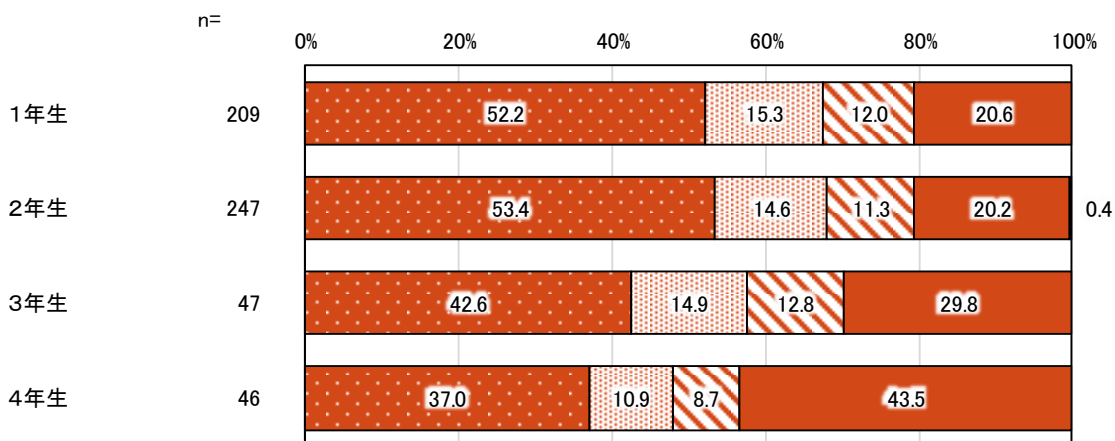
抑うつ尺度



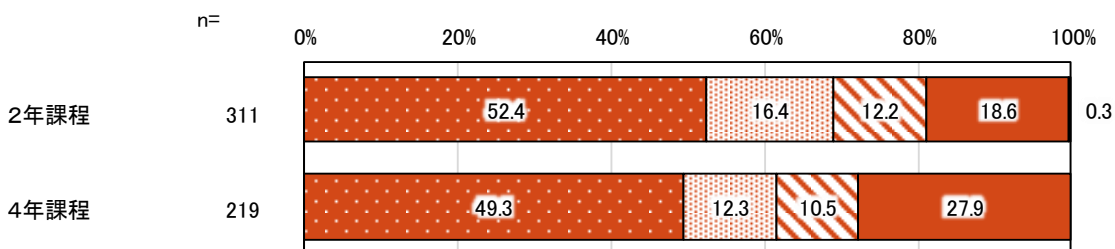
【性別 (n=549/551)】



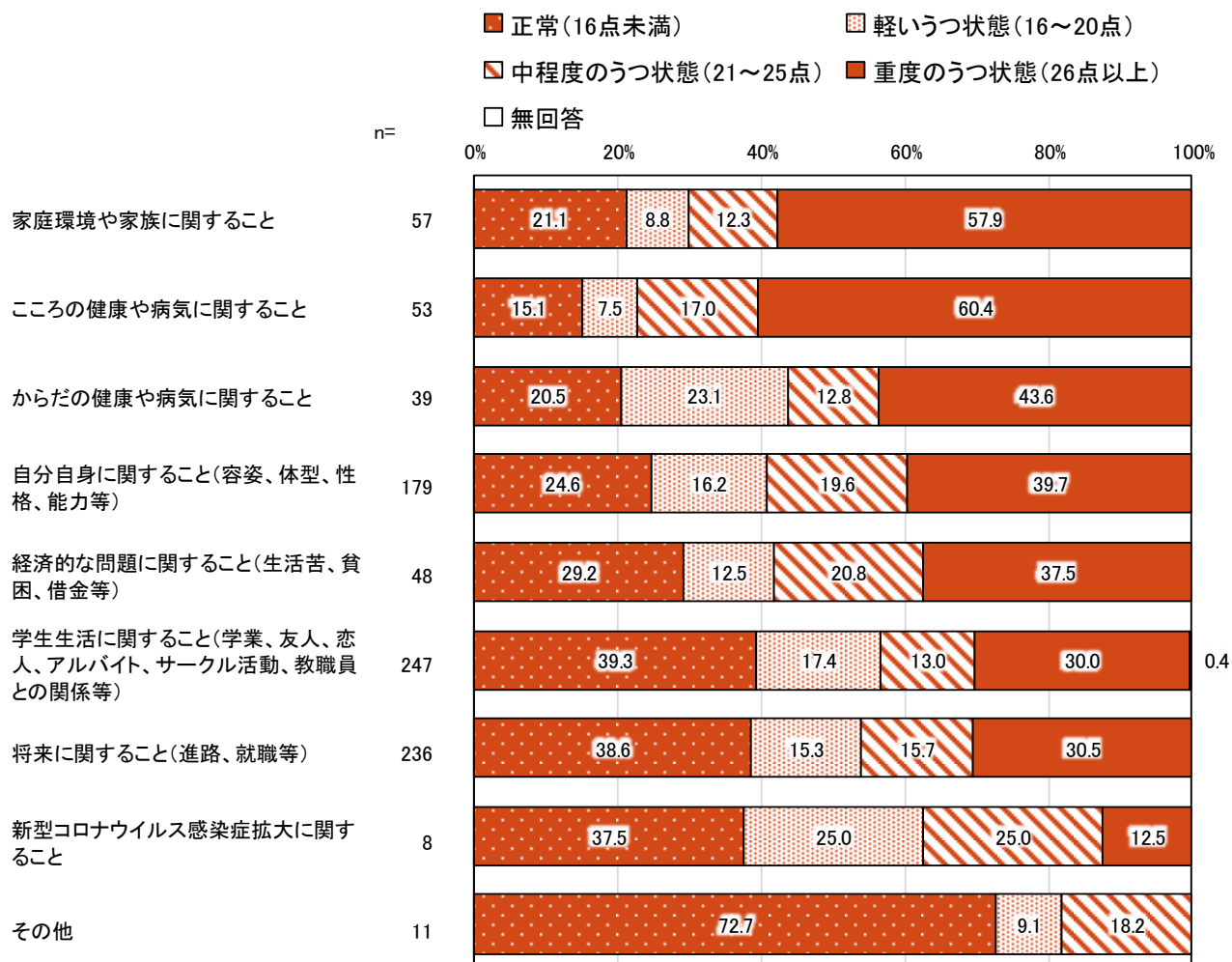
【学年別 (n=549/551)】



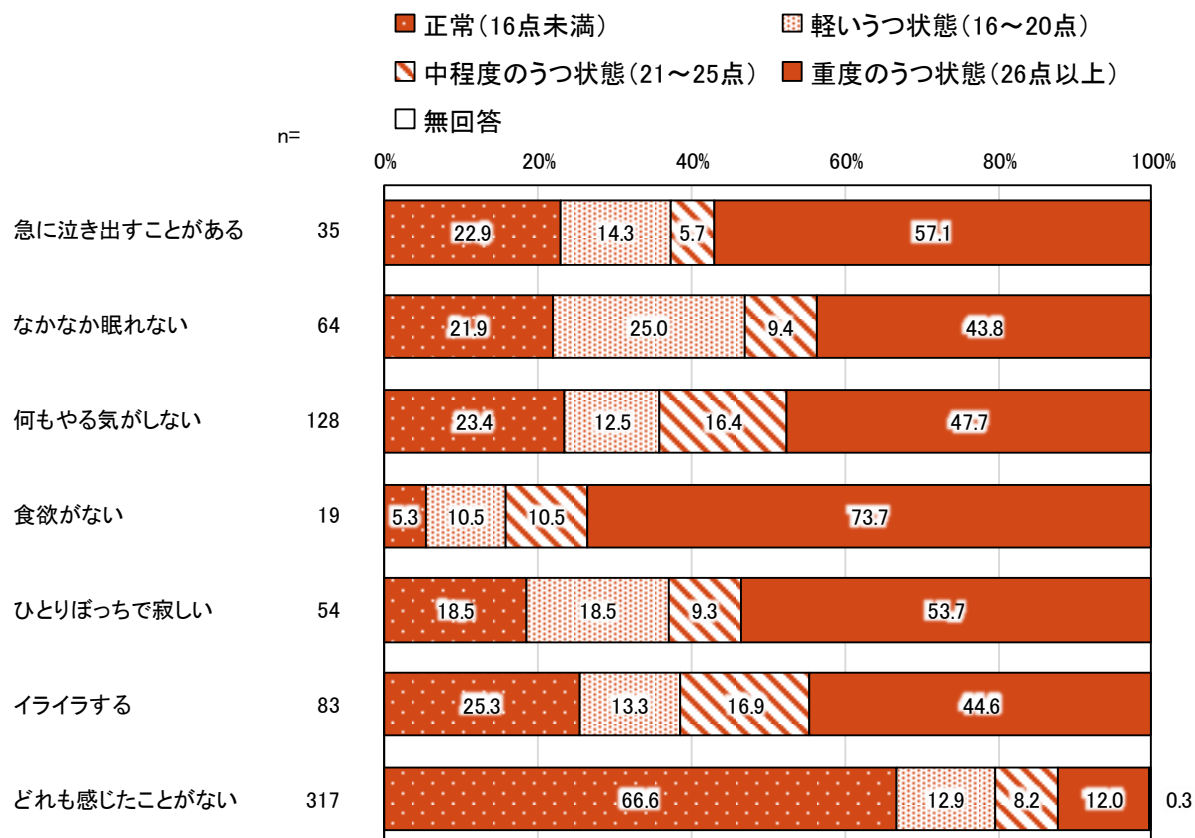
【課程別 (n=530/551)】



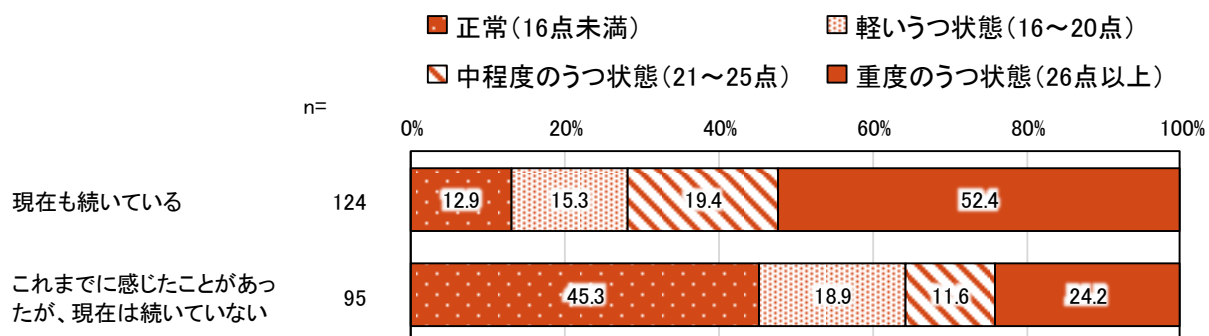
【不安や悩みの原因別（n=430/430）】



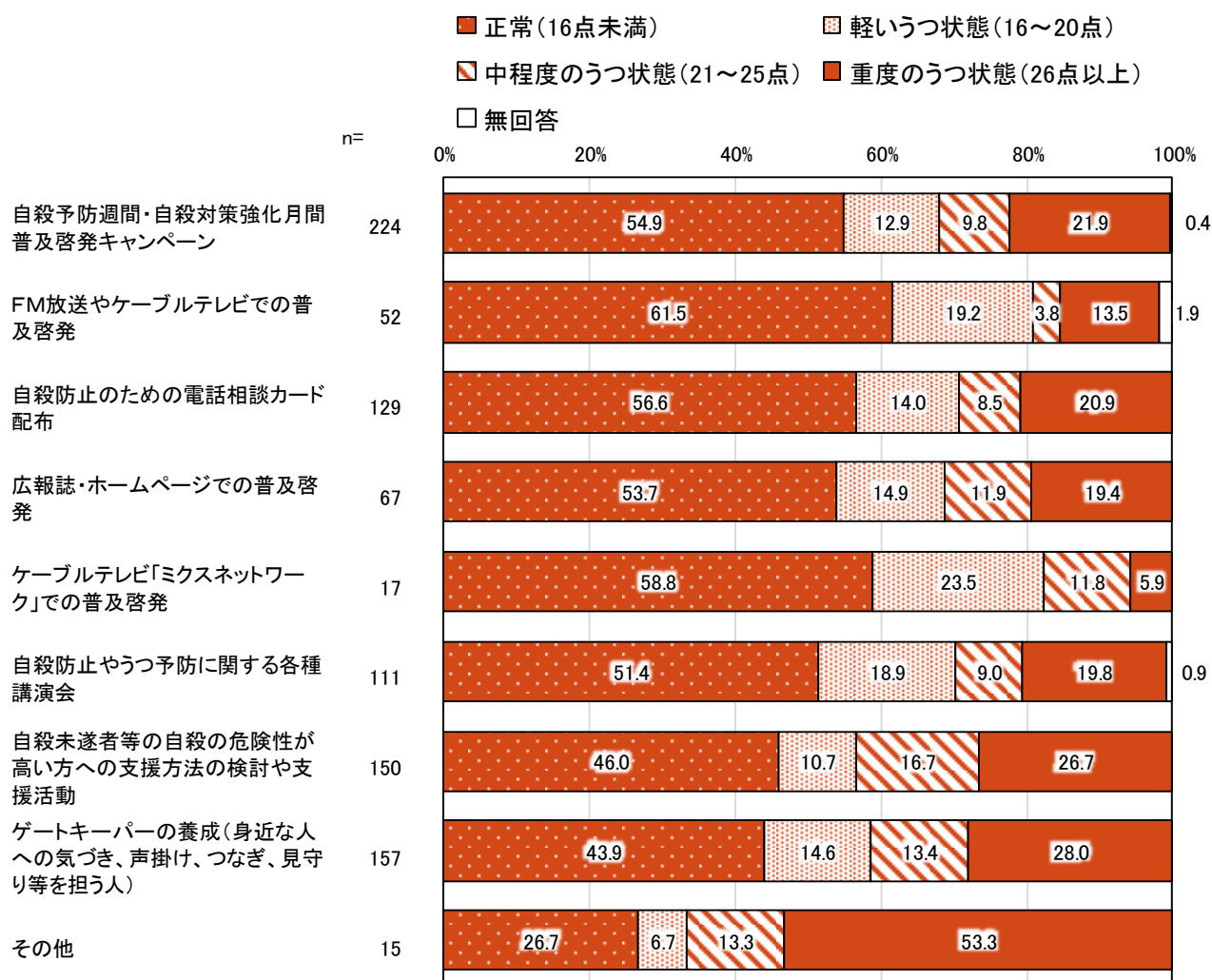
【新型コロナウイルス感染症拡大の影響によるからだに生じた変化別（n=551/551）】



【新型コロナウイルス感染症拡大の影響によるからだに生じた変化の継続別（n=219/226）】



【岡崎市の事業で特に重要だと思う取組別（n=551/551）】



抑うつ尺度について、「正常」の割合が 50.6%と最も高く、次いで「重度のうつ状態」が 23.0%、「軽いうつ状態」の割合が 14.7%となっています。また、「軽いうつ状態」、「中程度のうつ状態」、「重度のうつ状態」をあわせた“うつ状態”の割合は 49.1%となっています。

性別でみると、男性で「正常」の割合が 57.2%と高くなっています。

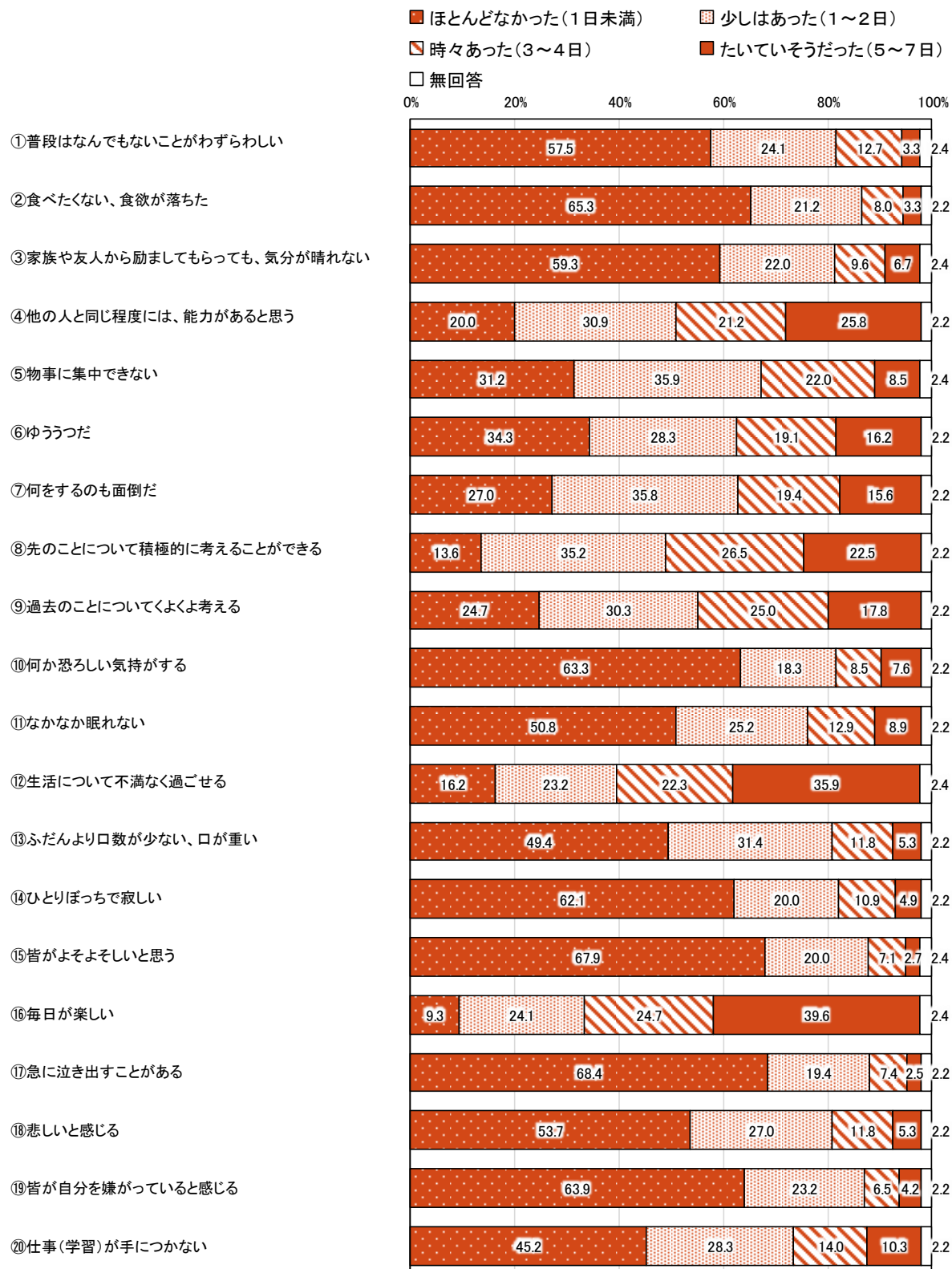
学年別でみると、4年生で“うつ状態”の割合が 63.1%と高くなっています。

不安や悩みの原因別でみると、こころの健康や病気に関することで「重度のうつ状態」の割合が 60.4%と高くなっています。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響によるからだに生じた変化別でみると、ひとりぼっちで寂しいで“うつ状態”の割合が 81.5%と高くなっています。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響によるからだに生じた変化の継続別でみると、現在も続いている人で“うつ状態”の割合が 87.1%と高くなっています。

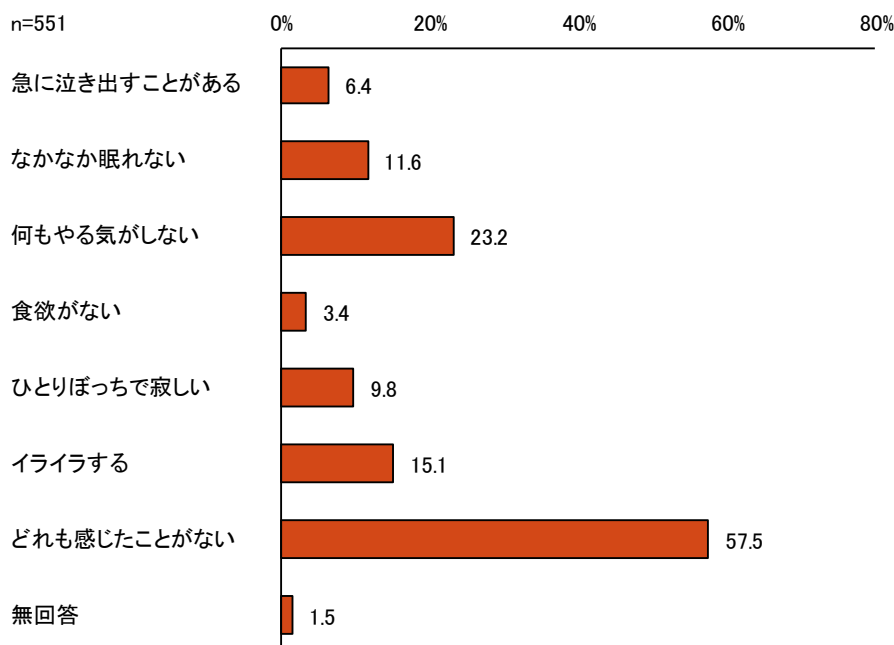
この1週間のからだやこころの状態、物事の感じ方などについて



この1週間のからだやこころの状態、物事の感じ方などについては、「時々あった(3~4日)」と「たいていそうだった(5~7日)」をあわせた“3日以上あった”で『⑥ゆううつだ』の割合が35.3%、『⑦何をするのも面倒だ』の割合が35.0%と高くなっています。

3 新型コロナウイルス感染症の影響について

問5 新型コロナウイルス感染症拡大による生活環境の変化(外出制限等)の影響で、「あなたのからだやこころの状態、物の感じ方」に生じた変化はありますか。(あてはまる番号3つまでに○、「7」の場合は1つのみ○)



【性別 (n=549/551)、学年別 (n=549/551)、親しい友人の有無別 (n=547/551)】

(単位: %)

		有効回答数 (件)	急に泣き出す ことがある	なかなか眠 れない	何もやる気 がしない	食欲がない	ひとりぼっ ちで寂しい	イライラす る	どれも感 じたこと がない	無回答
性別 n=549	男性	180	1.1	11.7	16.7	3.3	11.1	10.6	63.9	1.1
	女性	357	9.0	11.5	25.8	3.1	9.0	17.1	55.5	1.4
	答えたくない	12	-	16.7	50.0	16.7	8.3	25.0	33.3	-
学年 n=549	1年生	209	6.2	7.7	17.2	2.9	11.0	13.4	66.5	1.0
	2年生	247	6.9	11.3	25.1	3.6	8.1	14.6	55.1	1.2
	3年生	47	6.4	23.4	25.5	4.3	14.9	12.8	46.8	-
	4年生	46	4.3	19.6	39.1	4.3	8.7	28.3	41.3	4.3
親しい 友人の 有無 n=547	いる	494	6.3	11.5	22.3	3.0	9.7	14.6	58.3	1.4
	いない	15	13.3	6.7	33.3	6.7	-	20.0	53.3	-
	よくわからない	38	2.6	15.8	34.2	7.9	15.8	21.1	50.0	-

新型コロナウイルス感染症拡大による生活環境の変化の影響については、「どれも感じたことがない」が57.5%と最も高く、次いで「何もやる気がしない」が23.2%、「イライラする」が15.1%の割合となっています。

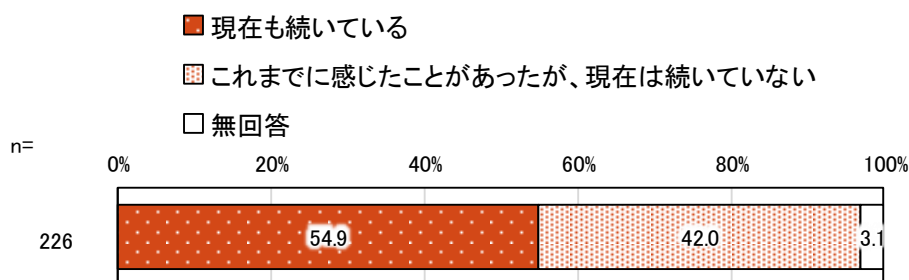
性別でみると、男性で「どれも感じたことがない」の割合が63.9%と高くなっています。

学年別でみると、1年生で「どれも感じたことがない」の割合が66.5%と高くなっています。また、3年生で「なかなか眠れない」の割合が23.4%、4年生で「何もやる気がしない」の割合が39.1%、「イライラする」の割合が28.3%と高くなっています。

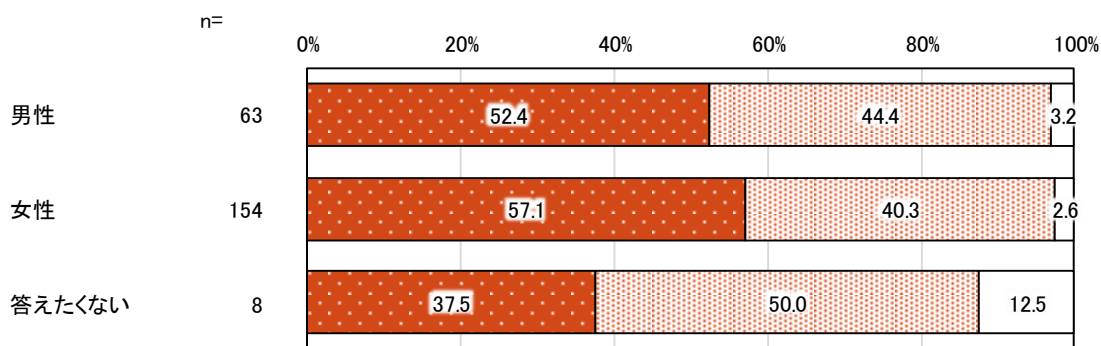
親しい友人の有無別でみると、親しい友人がいるかよくわからない人で「何もやる気がしない」の割合が34.2%と高くなっています。

問5で「1. 急に泣き出すことがある」「2. なかなか眠れない」「3. 何もやる気がしない」「4. 食欲がない」「5. ひとりぼっちで寂しい」「6. イライラする」の回答をされた方におたずねします。

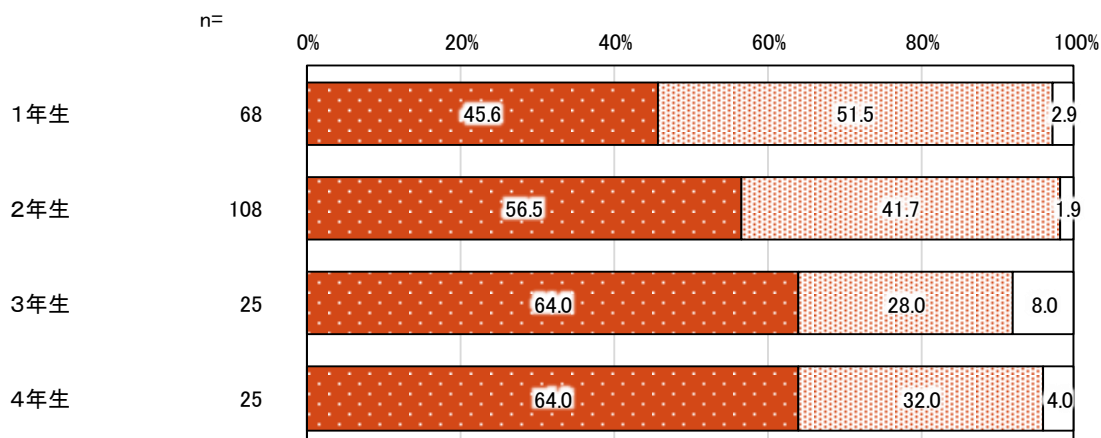
問5－2 それは現在も続いていますか。(○は1つ)



【性別 (n=225/226)】



【学年別 (n=226/226)】



新型コロナウイルス感染症拡大による生活環境の変化の影響が現在も続いているかについては、「現在も続いている」が 54.9%、「これまでに感じたことがあったが、現在は続いていない」が 42.0%の割合となっています。

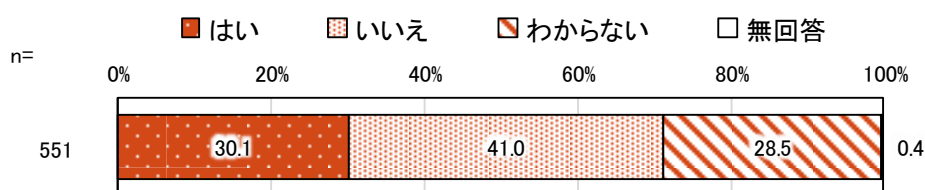
性別でみても、大きな差は見られません。

学年別でみると、1年生で「これまでに感じたことがあったが、現在は続いていない」の割合が 51.5%と高くなっています。

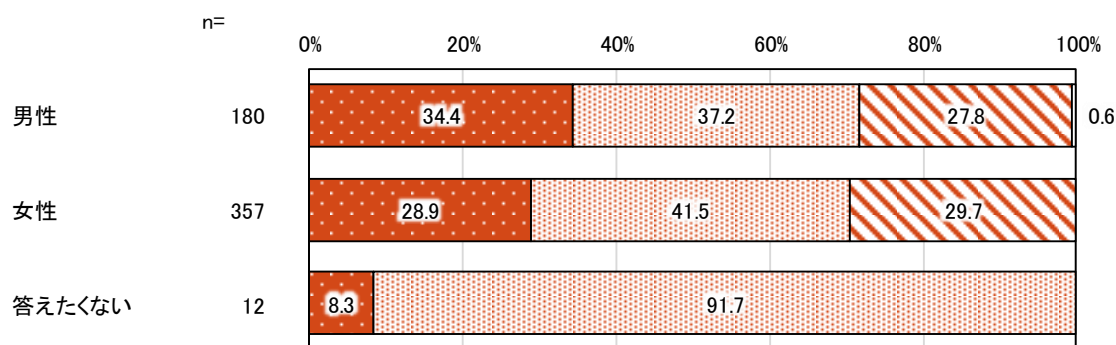
4 こころの健康や病気に関することや相談機関情報について

問6 あなたの持つ「うつ病」のイメージについてお答えください。(それぞれの項目に○は1つ)

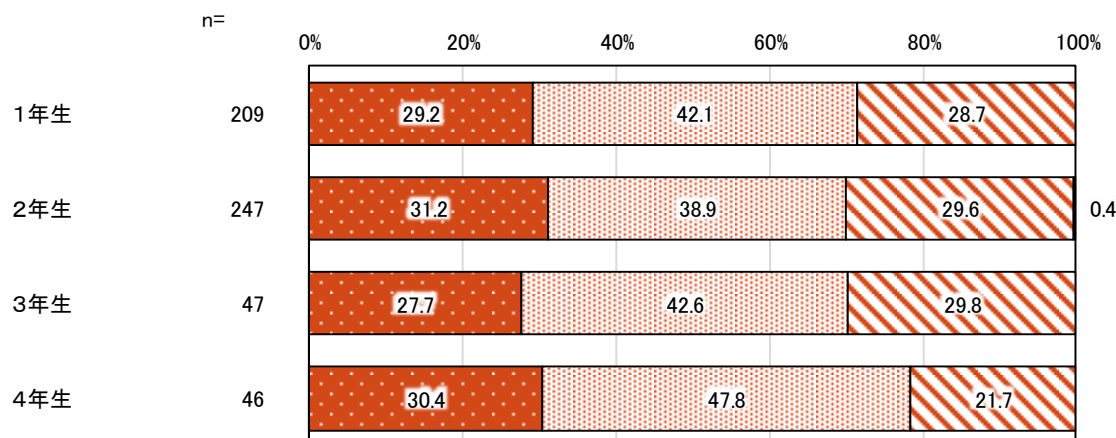
①うつ病は精神的な弱さが原因である



【性別 (n=549/551)】



【学年別 (n=549/551)】

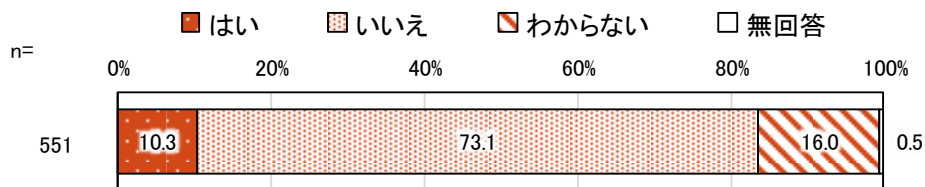


うつ病は精神的な弱さが原因であるについては、「いいえ」の割合が41.0%と最も高く、次いで「はい」の割合が30.1%、「わからない」の割合が28.5%となっています。

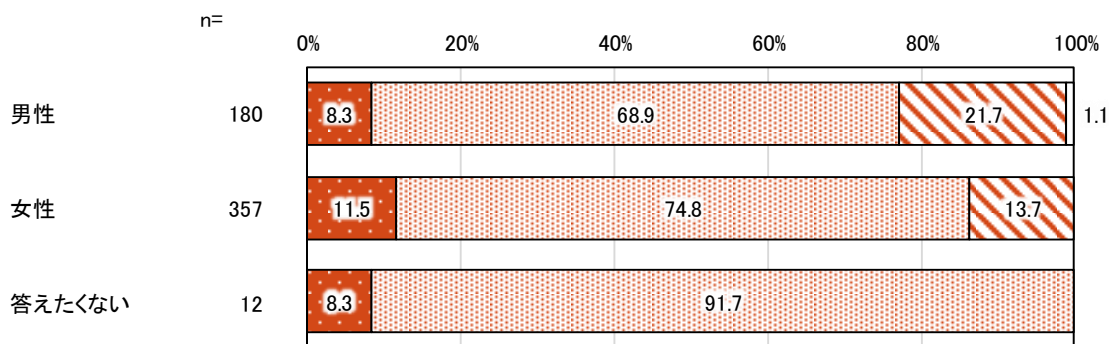
性別でみると、男性で「はい」の割合が34.4%と高くなっています。

学年別でみると、4年生で「いいえ」の割合が47.8%と高くなっています。

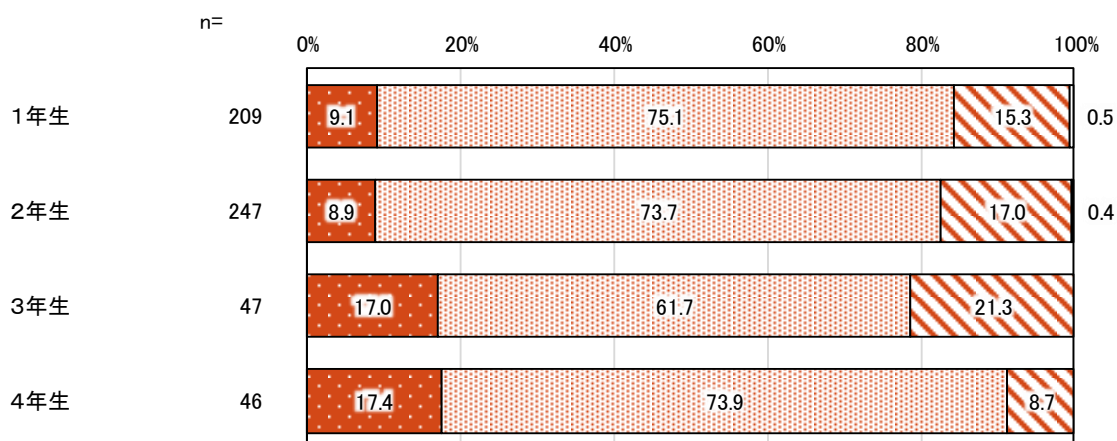
②うつ病は本人の怠け・甘えであり、病気ではない



【性別 (n=549/551)】



【学年別 (n=549/551)】

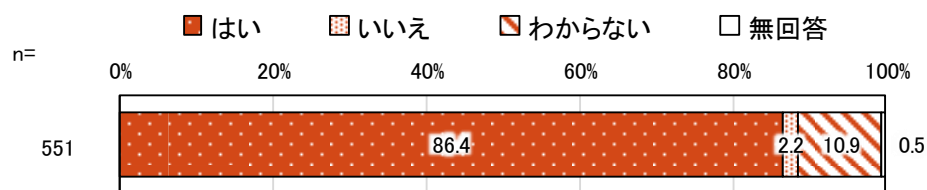


うつ病は本人の怠け・甘えが原因だと思うかについては、「いいえ」の割合が73.1%と最も高く、次いで「わからない」の割合が16.0%、「はい」の割合が10.3%となっています。

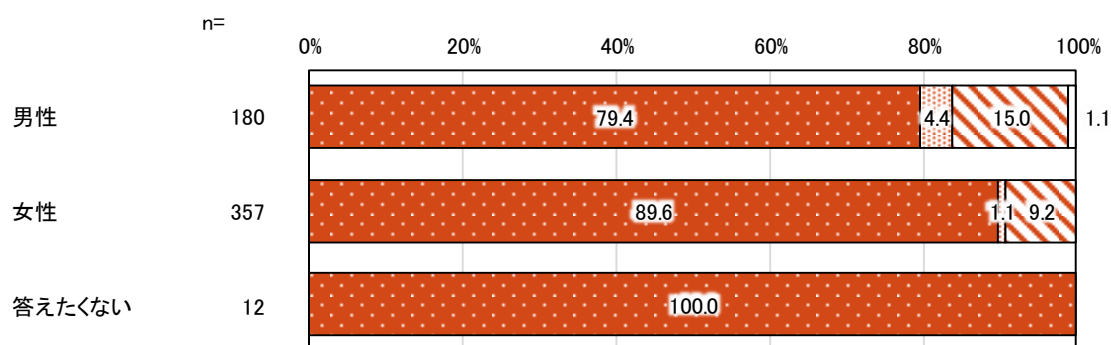
性別でみると、男性で「わからない」の割合が21.7%と高くなっています。

学年別でみると、「はい」の割合が3年生で17.0%、4年生17.4%とで高くなっています。

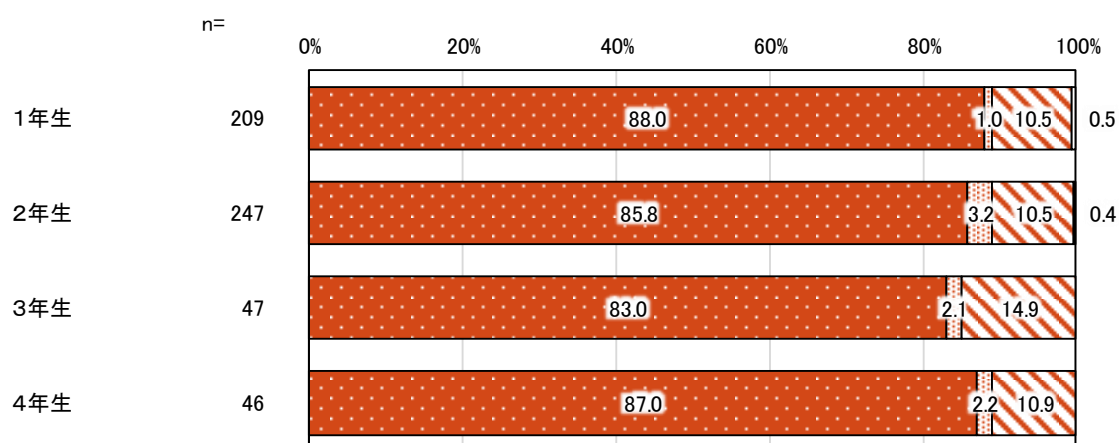
③うつ病は休養を取ることが大切である



【性別 (n=549/551)】



【学年別 (n=549/551)】

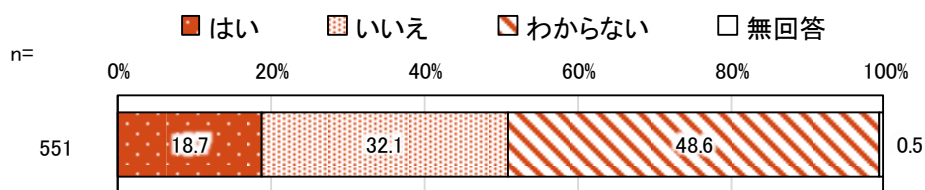


うつ病は休養をとることが大切だと思うかについては、「はい」の割合が86.4%と最も高く、次いで「わからない」の割合が10.9%、「いいえ」の割合が2.1%となっています。

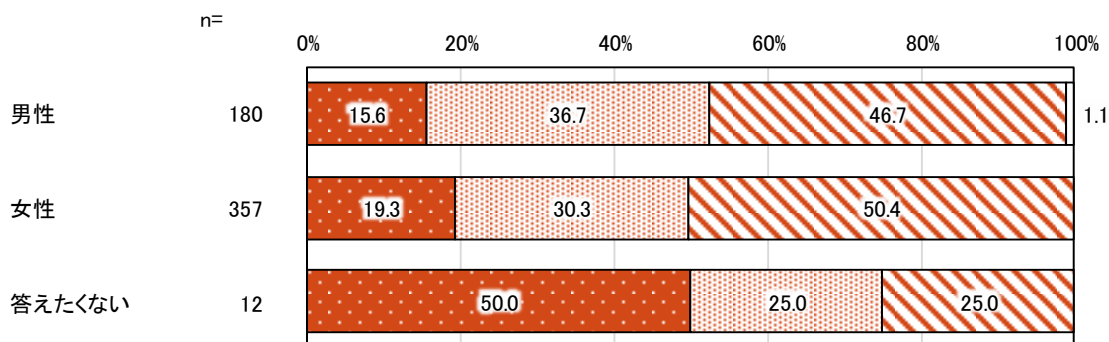
性別でみると、男性で「わからない」の割合が15.0%と高くなっています。

学年別でみると、3年生で「わからない」の割合が14.9%と高くなっています。

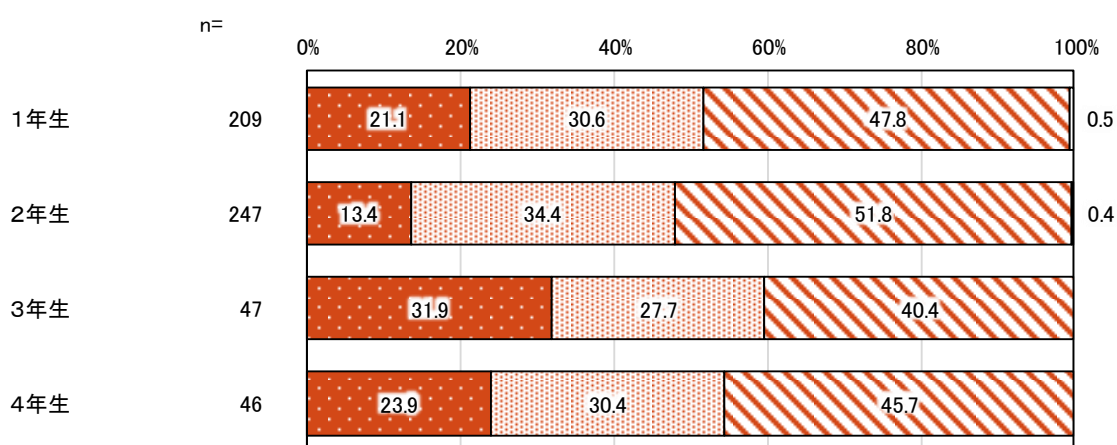
④うつ病の患者を励ましてはいけない



【性別 (n=549/551)】



【学年別 (n=549/551)】

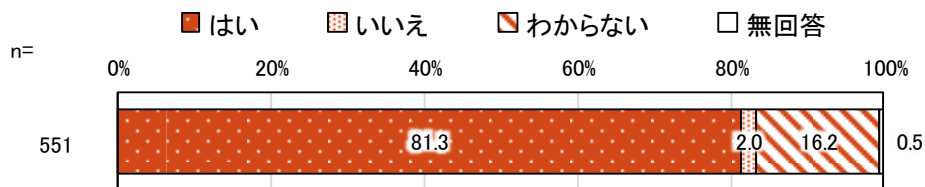


うつ病は患者を励ましてはいけないと思うかについては、「わからない」の割合が48.6%と最も高く、次いで「いいえ」の割合が32.1%、「はい」の割合が18.7%となっています。

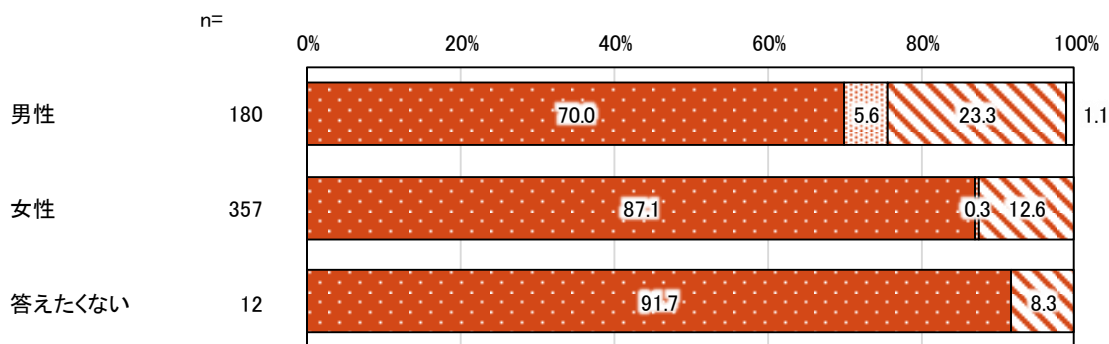
性別でみると、男性で「いいえ」の割合が36.7%と高くなっています。

学年別でみると、3年生で「はい」の割合が31.9%と高くなっています。

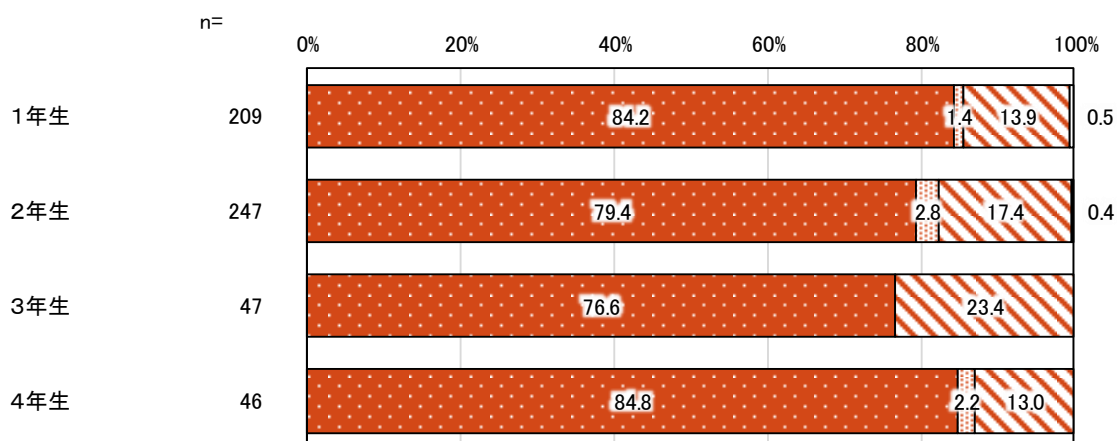
⑤うつ病は早期発見・早期対応が大切である



【性別 (n=549/551)】



【学年別 (n=549/551)】

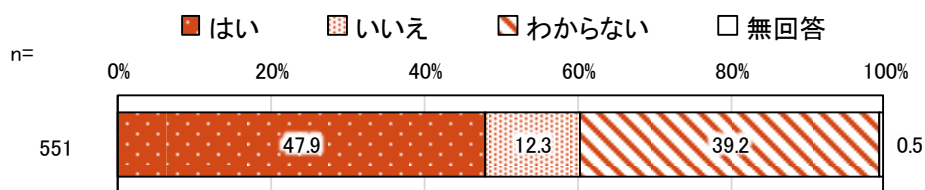


うつ病は早期発見、早期対応が大切だと思うかについては、「はい」の割合が81.3%と最も高く、次いで「わからない」の割合が16.2%、「いいえ」の割合が2.0%となっています。

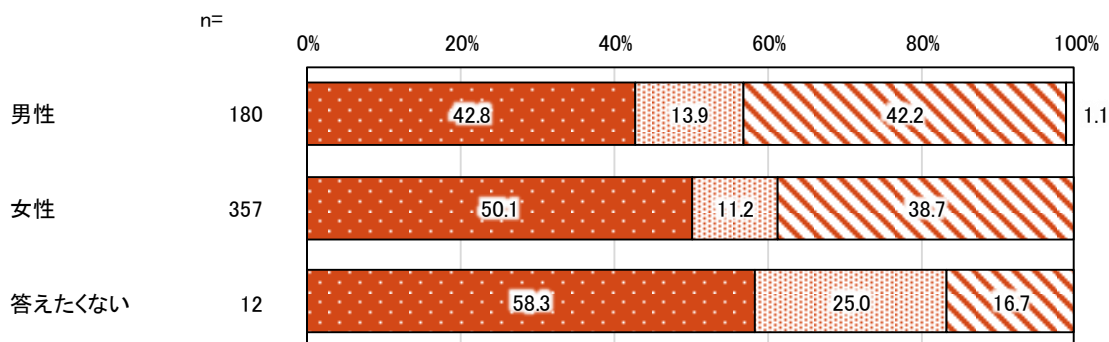
性別でみると、男性で「はい」の割合が70.0%と低くなっています。

学年別でみると、3年生で「わからない」の割合が23.4%と高くなっています。

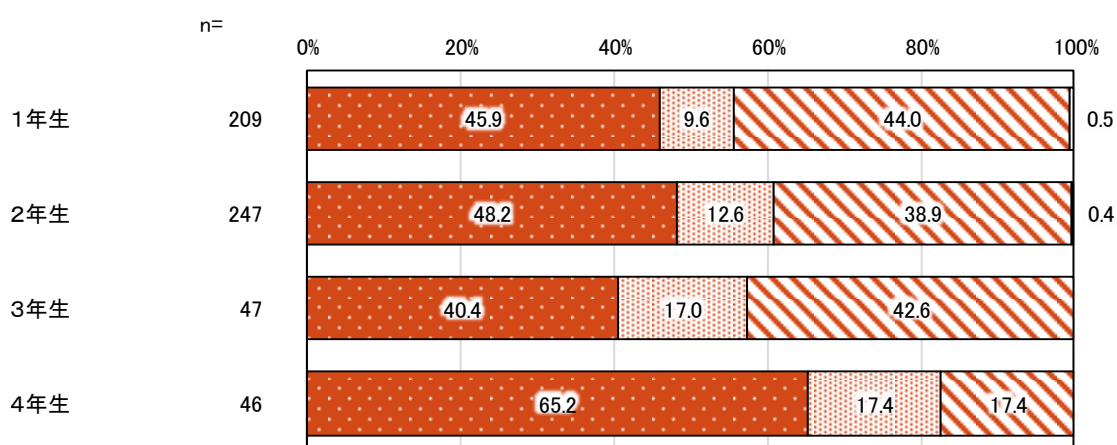
⑥うつ病は適切な治療により治る病気である



【性別 (n=549/551)】



【学年別 (n=549/551)】

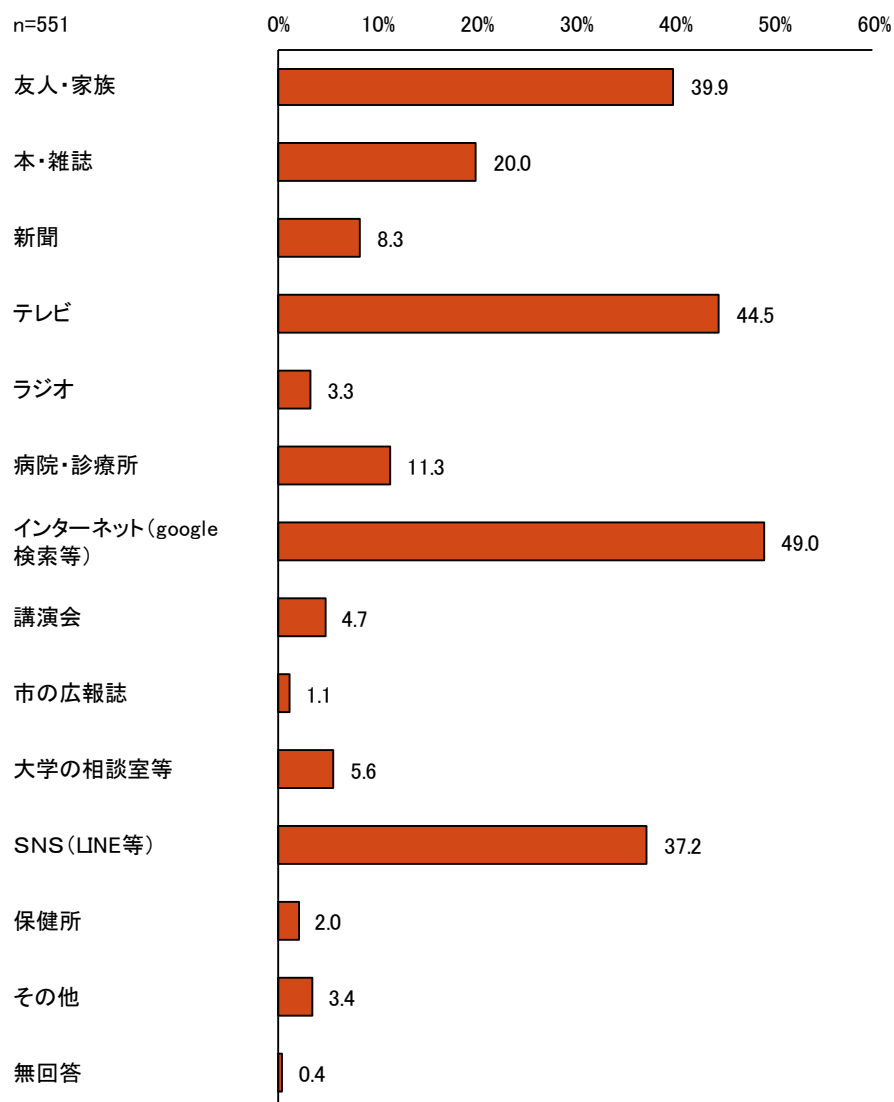


うつ病は適切な治療により治ると思うかについては、「はい」の割合が47.9%と最も高く、次いで「わからない」の割合が39.2%、「いいえ」の割合が12.3%となっています。

性別でみると、男性で「はい」の割合が42.8%で低くなっています。

学年別でみると、4年生で「はい」の割合が65.2%と高くなっています。

問7 「こころの健康や病気」について、どのようなところから知識・情報を手に入れますか。(あてはまるものすべてに○)



【性別（n=549/551）、学年別（n=549/551）、親しい友人の有無別（n=547/551）】

（単位：％）

		有効回答数 （件）	友人・家族	本・雑誌	新聞	テレビ	ラジオ	病院・診療所	インターネット （google 検索等）	講演会	市の広報誌	大学の相談室等	SNS （LINE 等）	保健所	その他	無回答
性別 n=549	男性	180	45.6	21.7	10.0	37.2	5.6	10.0	47.8	5.6	1.7	4.4	25.6	2.8	4.4	0.6
	女性	357	38.1	18.8	7.8	49.0	2.2	12.0	49.3	4.2	0.8	6.2	42.3	1.7	2.8	—
	答えたくない	12	8.3	33.3	—	25.0	—	8.3	66.7	8.3	—	8.3	66.7	—	8.3	—
学年 n=549	1年生	209	39.7	21.5	9.1	47.4	1.9	12.4	56.0	5.7	1.0	4.3	38.8	2.9	1.4	0.5
	2年生	247	40.5	18.6	6.9	42.5	3.6	8.5	43.3	3.2	0.8	3.2	32.0	1.6	4.0	—
	3年生	47	44.7	21.3	10.6	36.2	8.5	12.8	48.9	8.5	4.3	8.5	46.8	2.1	6.4	—
	4年生	46	34.8	17.4	10.9	52.2	2.2	19.6	50.0	2.2	—	21.7	50.0	—	6.5	—
親しい友人の有無 n=547	いる	494	42.7	20.0	8.3	44.9	3.2	10.7	48.4	5.1	1.0	5.1	36.6	2.0	3.2	0.2
	いない	15	20.0	26.7	13.3	60.0	6.7	26.7	73.3	6.7	6.7	6.7	20.0	6.7	—	—
	よくわからない	38	15.8	15.8	7.9	36.8	2.6	10.5	52.6	—	—	13.2	52.6	—	5.3	—

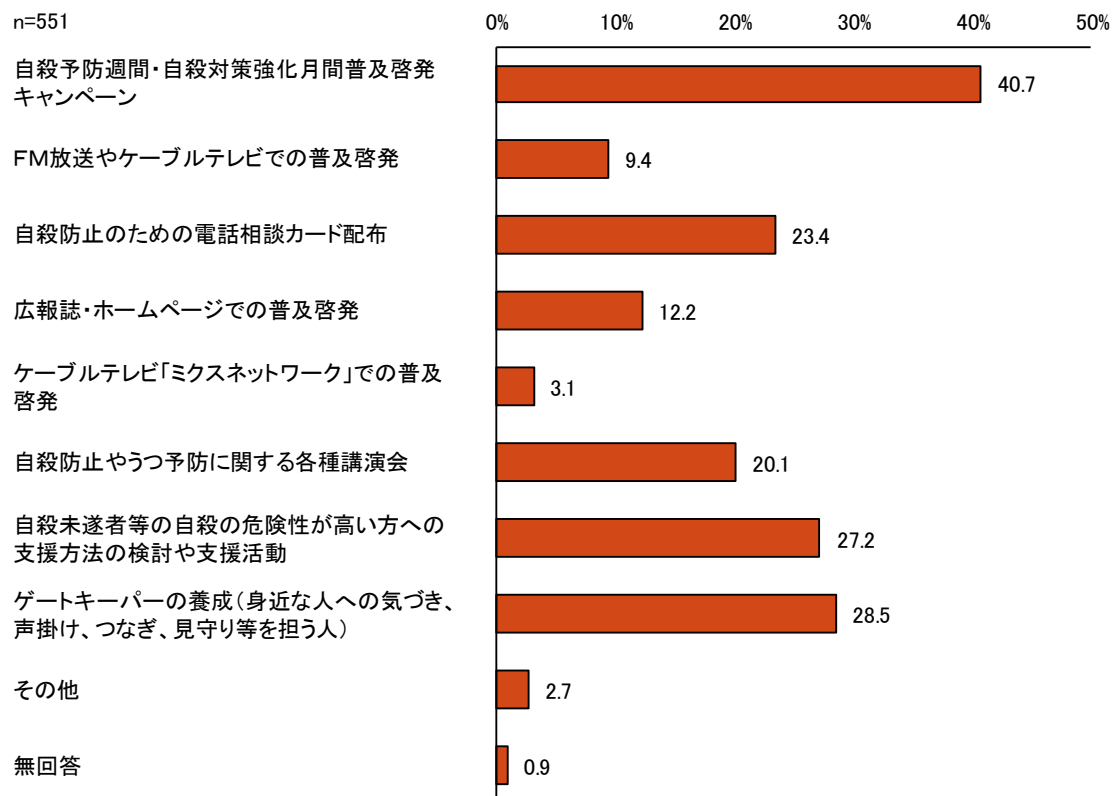
「こころの健康や病気」の情報の入手先については、「インターネット（google 検索等）」の割合が49.0%と最も高く、次いで「テレビ」の割合が44.5%、「友人・家族」の割合が39.9%となっています。

性別でみると、女性で「SNS（LINE 等）」の割合が42.3%と高く、男性では割合が25.6%と低くなっています。

学年別でみると、4年生で「病院・診療所」の割合が19.6%、「大学の相談室等」の割合が21.7%と高くなっています。

親しい友人の有無別でみると、親しい友人がいるかよくわからない人で「SNS（LINE 等）」の割合が52.6%と高くなっています。

問8 岡崎市の事業の中で、あなたが特に重要だと思う取組はどれですか。(〇は3つまで)



【性別 (n=549/551)、学年別 (n=549/551)】

(単位: %)

		有効回答数(件)	自殺予防週間・自殺対策強化月間普及啓発キャンペーン	FM放送やケーブルテレビでの普及啓発	自殺防止のための電話相談カード配布	広報誌・ホームページでの普及啓発	ケーブルテレビ「ミクスネットワーク」での普及啓発	自殺防止やうつ予防に関する各種講演会	自殺未遂者等の自殺の危険性が高い方への支援方法の検討や支援活動	ゲートキーパーの養成(身近な人への気づき、声掛け、つなぎ、見守り等を担う人)	その他	無回答
性別 n=549	男性	180	47.8	13.9	26.1	11.1	6.1	19.4	24.4	22.8	2.8	1.7
	女性	357	37.5	7.3	22.4	12.3	1.7	21.0	27.7	30.5	2.5	0.3
	答えたくない	12	33.3	8.3	16.7	25.0	-	8.3	58.3	50.0	8.3	-
学年 n=549	1年生	209	40.2	8.6	19.6	7.2	2.4	21.1	29.2	31.1	1.9	0.5
	2年生	247	42.9	7.3	27.5	14.6	3.6	20.6	23.1	24.7	2.8	1.2
	3年生	47	29.8	17.0	19.1	17.0	2.1	14.9	31.9	27.7	6.4	-
	4年生	46	43.5	17.4	23.9	15.2	4.3	19.6	37.0	39.1	2.2	-

岡崎市の事業の中で、あなたが特に重要だと思う取組は、「自殺予防週間・自殺対策強化月間普及啓発キャンペーン」の割合が 40.7%と最も高く、次いで「ゲートキーパーの養成（身近な人への気づき、声掛け、つながり、見守り等を担う人）」の割合が 28.5%、「自殺未遂者等の自殺の危険性が高い方への支援方法の検討や支援活動」が 27.2%となっています。

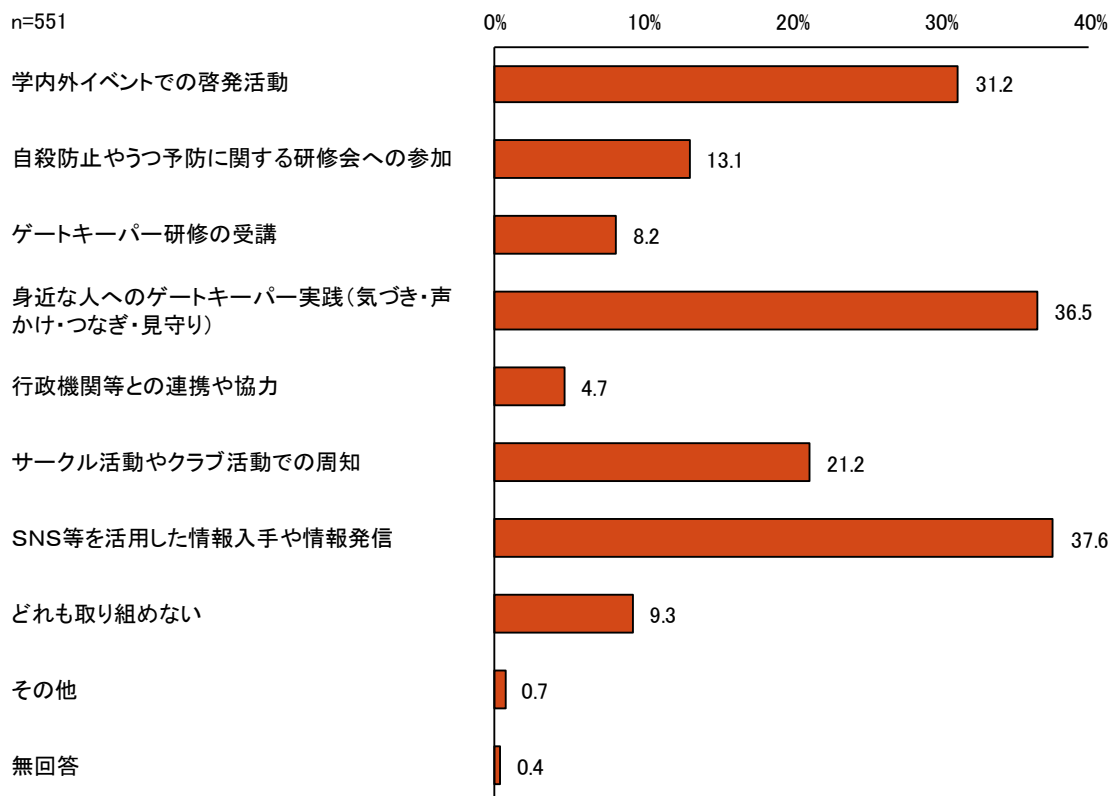
性別でみると、男性は「自殺予防週間・自殺対策強化月間普及啓発キャンペーン」の割合が 47.8%と高くなっています。

学年別でみると、4年生で「ゲートキーパーの養成（身近な人への気づき、声掛け、つながり、見守り等を担う人）」の割合が 39.1%と高くなっています。一方、3年生では「自殺予防週間・自殺対策強化月間普及啓発キャンペーン」の割合が 29.8%で低くなっています。

【その他の主な回答内容】

- ・ 交通渋滞の改善
- ・ 交通の便
- ・ 何か悩みを打ち明けられるような場所(LINE とかを作る) など

問9 大学生として、あなた自身が行い始めると思う活動はありますか。(あてはまる番号すべてに○)



【性別 (n=549/551)、学年別 (n=549/551)】

(単位: %)

		有効回答数(件)	学内外イベントでの啓発活動	自殺防止やうつ予防に関する研修会への参加	ゲートキーパー研修の受講	身近な人へのゲートキーパー実践(気づき・声かけ・つながり・見守り)	行政機関等との連携や協力	サークル活動やクラブ活動での周知	SNS等を活用した情報入手や情報発信	どれも取り組めない	その他	無回答
性別 n=549	男性	180	37.8	16.1	8.9	26.1	7.8	30.6	30.0	10.0	1.1	0.6
	女性	357	28.6	11.8	7.6	41.5	3.1	17.1	39.8	9.0	0.6	-
	答えたくない	12	16.7	8.3	16.7	41.7	8.3	8.3	91.7	8.3	-	-
学年 n=549	1年生	209	32.5	15.3	12.0	43.5	6.7	26.3	35.9	3.8	0.5	-
	2年生	247	31.6	8.1	3.2	32.0	2.4	17.4	36.4	13.0	0.8	0.4
	3年生	47	25.5	19.1	6.4	29.8	4.3	21.3	38.3	17.0	2.1	-
	4年生	46	30.4	23.9	19.6	34.8	8.7	19.6	50.0	6.5	-	-

大学生として自身が取り組めると思う活動の有無については、「SNS等を活用した情報入手や情報発信」の割合が37.6%と最も高く、次いで「身近な人へのゲートキーパー実践（気づき・声かけ・つながり・見守り）」の割合が36.5%、「学内外イベントでの啓発活動」の割合が31.2%となっています。

性別でみると、男性は「サークル活動やクラブ活動での周知」の割合が30.6%、女性は「身近な人へのゲートキーパー実践（気づき・声かけ・つながり・見守り）」の割合が41.5%と高くなっています。

学年別でみると、1年生は「身近な人へのゲートキーパー実践（気づき・声かけ・つながり・見守り）」の割合が43.5%、4年生は「ゲートキーパー研修の受講」の割合が19.6%、「SNS等を活用した情報入手や情報発信」の割合が50.0%と高くなっています。

5 調査結果のまとめ

【自殺対策】

自殺予防の対策として、自身が取り組めると思う活動として、「SNS等を活用した情報の入手や情報発信」、「身近な人へのゲートキーパー実践（気づき・声かけ・つなぎ・見守り）」「学内外イベントでの啓発活動」の割合が30%以上と高くなっています。（問9）

市の自殺対策予防事業について、「自殺予防週間・自殺対策強化月間普及啓発キャンペーン」の割合が最も高く40.7%となっています。学年別でみると、3年生で「自殺未遂者等の自殺の危険性が高い方への支援方法の検討や支援活動」の割合が31.9%と高くなっています。（問8）

うつ病に対するイメージについて、「うつ病は休養を取ることが大切である」の設問で「はい」と答えた割合が86.4%、「うつ病は早期発見・早期対応が大切である」の割合が81.3%といずれも80%以上と高くなっています。学年別でみると、「うつ病は適切な治療により治る病気である」の設問で4年生の「はい」が65.2%と他の学年が40%台となっているのに対し、割合が高くなっています。（問6）

【うつ傾向者の状態】

重度うつ状態の人の不安や悩みの原因は、「こころの健康や病気に関すること」（60.4%）、「家庭環境や家族に関すること」（57.9%）で割合が高くなっています。

“うつ状態”の人で、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によるからだに生じた変化が「現在も続いている」人の割合が87.1%と高くなっています。